

編集後記

初めて編集委員なるお役を頂戴し、学内活性化のツールを活かすことの難しさを感じました。せつかくの機関誌、せつかくのシステムを十分に活かすためには、やはり女性学プロパーの教員がぐいぐいと引っ張っていく方が望ましいのではないかと感じます。自分にとっては専門外を学ぶ機会と前向きに捉えていますが、それでは申し訳ないというのが正直な気持です。(M.T.)

秋にフィラデルフィアでアメリカ女性作家学会の国際大会がありました。全体会議のテーマは Transnational American Women's Writing というものでした。世界がグローバル化するにつれて、文化も混ざり合い、そこから生まれてくる文学も多様で、複雑になるものだと、実感しました。女性独自の問題もますます複雑になることと思います。(H.U.)

この『女性学評論』がお手元に届くのは、今年度末でご退職の方々、ほっと肩の荷を下ろされ、卒業生にとっては卒業式を目前にして期待と不安が交錯している、そのような頃でしょうか。私も、あと、一年で岡田山を卒業です。様々な価値観にふれる機会をいただき良い経験となりました。(N.T.)

底知れないデフレ不況が続いています。昨年は政権交代という画期的な出来事がありましたが、明るい未来は見えてきません。いっぽう、男女格差は固定化し、女性間格差は拡大しているように思えます。政治や経済もさることながら、「女性学」にも新たな転換と飛躍を望みたいものです。(M.W.)

.....